

## 研究開発5 大学等との連携

### 1 目的と期待される効果

#### (1) 目的

グローバル社会の課題について研究している大学等の教授や研究者と連携し、大学の研究室を訪問するなどの講座を「GLアクティブ」で設定して、最先端の研究に触れるとともに直接専門家の指導やアドバイスを受けることにより、グローバルな社会課題に対する関心と意欲を喚起する。また、課題研究の進め方やまとめ方の指導を受ける。

#### (2) 期待される効果

大学等の教授や研究者との交流を通して質の高い、現実味のある課題研究を行うことが期待できる。

### 2 内容

次の大学等と連携し、各講座を実施する。生徒は各自の興味・関心により希望する講座に出席する。

#### (1) 千葉大学

#### (2) 神田外語大学

#### (3) 筑波大学

#### (4) 東京外国語大学

#### ※ 実施する主な講座

- ① グローバルな視点で捉えた言語学等に関する講座
- ① グローバルな視点で捉えた社会学等に関する講座
- ② グローバルな視点で捉えた地理歴史等に関する講座
- ③ グローバルな視点で捉えた芸術等に関する講座
- ④ グローバルな視点で捉えた数理学等に関する講座
- ⑤ グローバルな視点で捉えた体育等に関する講座
- ⑥ グローバルな視点で捉えた道德等に関する講座
- ⑦ 課題研究の進め方や発表方法の指導講座

### 3 実施方法

学校設定科目「GLアクティブ」において行う。大学等の連携により受講した講座や研究室の訪問について参加した生徒については、実施後、報告書を提出し、提出された報告書及び活動の記録等を基に学校設定科目「GLアクティブ」の評価に加える。

### 4 検証評価方法

検証方法は、生徒及び教員に対して、講座ごとに記名式4択式アンケートを実施する。その結果を連携した大学・学部へ提示し、大学・学部からの意見を評価に加える。

### 5 昨年度との変更点

- (1) 東京大学の学生と課題研究についてディスカッション等を行う講座を設けた。
- (2) 千葉大学及び東京大学の先生の助言の機会を増やした。

## 6 実施内容

### (1) 『歴博+千葉大留学生プロジェクト見学』

ア 日 時 平成30年8月2日（木）正午～午後3時30分

イ 場 所 国立歴史民俗博物館

ウ 対 象 10名（1，2学年希望者）

エ 目 的 千葉大学留学生が着目する日本の歴史や文化について考察し，研究課題を見つける一助とする。

オ 内 容 千葉大学で学ぶ留学生たちが，「ここを見ると日本の歴史や文化が理解しやすい」，「ここが面白い」と考えた内容を，母国語で作成したワークシートを通じて表現する。その発表を見て考えを深めるとともに，留学生と意見交換を行った。



### (2) 『千葉大学環境ISO学生委員会について知ろう』

ア 日 時 平成30年8月6日（月）午前9時～正午

イ 場 所 千葉大学西千葉キャンパス

ウ 対 象 11名（1，2学年希望者）

エ 目 的 環境マネジメントシステムに主体的に取り組んでいる千葉大学環境ISO学生委員会の活動を知ること，高校生ができる環境問題解決に向けた取り組みについて考えるとともに，課題研究の一助とする。

オ 内 容 千葉大学環境ISO学生委員会に所属する学生にまず，活動内容や環境マネジメントシステムについてのプレゼンテーションを行っていただいた。その後，彼らが実際に取り組んでいる「落ち葉の堆肥化」や「緑のカーテン」を見学させていただき，質疑応答を行った。



### (3) GL探究『ポピュリズムと多文化共生』

- ア 日 時 平成30年9月13日(木) 7限  
イ 場 所 本校体育館  
ウ 対 象 1・2年生  
エ 目 的 グローバルな課題について研究している大学教授の話聞くことで、これから到来するグローバル化社会の中で、自分がどのように生きていくべきかを考える。  
オ 講 師 千葉大学法政経学部教授 水島 治郎 先生  
カ 内 容 「ポピュリズムの台頭と多文化共生―混迷する現代世界を千葉から考える―」という題で、現代政治におけるポピュリズム(グローバル化との関係性)、治水・利水から見たオランダと千葉県北総地域の比較(地域の発展と育まれた独自性の共通点)、千葉大学の学生と行っているまちづくり活動(地域から始まる多文化共生)などについて講演をいただいた。

### (4)『東京大学SGH研修』

- ア 日 時 平成30年10月29日(月) 午前10時～午後2時  
イ 場 所 東京大学  
ウ 対 象 15名(2年生8名, 1年生7名)  
エ 目 的 グローバルな問題に関連する分野を研究している学生と交流し、課題研究について助言を受ける。  
オ 講 師 東京大学准教授 阿古 智子 先生  
カ 内 容 東京大学教養学部で、語学・国際理解を主テーマに授業選択をしている学生の協力をいただいた。前半部分では大学2年生の国際理解プレゼンを英語で聞き、英語で質疑応答を行った。その後、プレゼンの技術面をテーマに日本語で討議を行った。  
後半部分は、本校生徒3グループが現在研究中の課題研究プレゼンを大学生に行った。

キ アンケート結果

【GLアクティブ共通アンケート】(数値は回答数)

① 日本や地域の歴史・伝統・文化、社会課題をより深く理解する必要性を感じた。

おおいにあてはまる	だいたいあてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない
6人	6人	3人	0人

② 外国の歴史・伝統・文化、社会課題に関する興味・関心が高まった。

おおいにあてはまる	だいたいあてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない
5人	5人	5人	0人

③ 今回のGLアクティブの事柄を、外国人に英語で説明することができる。

おおいにあてはまる	だいたいあてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない
2人	5人	8人	0人

④ 今回のGLアクティブの事柄を、友人等と話し合うことができる。

おおいにあてはまる	だいたいあてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない
11人	4人	0人	0人

⑤ 今回の GL アクティブに関連する課題研究テーマを考えることができる。

おおいにあてはまる	だいたいあてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない
5人	9人	0人	1人

⑥ 課題研究に関する新たな（異なる）視点を得ることができた。

おおいにあてはまる	だいたいあてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない
15人	0人	0人	0人

⑦ この GL アクティブは、課題研究テーマを考えるのに役立った。

おおいにあてはまる	だいたいあてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない
15人	0人	0人	0人

### 【生徒感想】

- ・クリエイティブな発想を学ぶことができ、大いに役立った。
- ・自分たちだけでは思いつかないアドバイスをたくさんもらえて本当に有意義だった。
- ・革新的なアイデアをたくさんいただけ良かった。今までの研究内容がとても深まった。
- ・大学生の英語プレゼンに感激した。発音もスピードも表現もなにもかも素晴らしかった。
- ・大学生のプレゼンから多くのテクニックを学ぶことができた。誰に対するプレゼンなのかを重視していきたい。

### ク 成果と課題

生徒は学生のプレゼン内容と表現に、大きな感銘を受けた。語学力はもちろん、豊かな表情、巧みなジェスチャー、間合いの取り方、聴衆への問いかけ、知識に裏打ちされた説明等、学ぶことが多かった。

課題研究を発表した生徒は、多くの大学生から意見をもらい、新たな視点を得ることができた。行き詰まっている点を率直に語り、大学生から助言をもらい解決への糸口を得るなど効果的な講座であった。



#### (5)「筑波大学SGH研修」

ア 日 時 平成30年10月29日(月) 午前8時～午後3時

イ 場 所 筑波大学

ウ 対 象 39名(1年希望者)

エ 目 標 多文化共生等のグローバルな問題に関連する分野を研究している研究室や授業等を見学し、SGH課題研究の一助とする。

オ 講 師 筑波大学人文社会学系助教 毛利 亜紀 先生

カ 内 容 毛利先生による講義「東アジアの『逆説』－歴史認識問題の継続－」を受講した。「なぜ近現代史が重視されるのか」という導入から始まり、日中・日韓関係が政府レベルと民間レベルでの乖離がみられること、日米関係と比べて日中・日韓関係は良好なものとはいえないこと、一つの出来事に対して、様々な解釈があるということが歴史認識であるという内容であった。この内容を踏まえて、中国や韓国からの訪日観光客が増えているにもかかわらず、歴史問題が根深く残っていることが「逆説」であるととらえ、その出発点を探るために近現代史を重視する必要があるという結論であった。学内の図書館を見学した。



#### (6)『東京外国語大学』

ア 日 時 平成30年10月29日(月) 午前8時～午後3時

イ 場 所 東京外国語大学

ウ 対 象 18名(1年生14名, 2年生4名)

エ 目 標 多文化共生等のグローバルな問題に関連する分野を研究している研究室や授業等を見学し、SGH課題研究の一助とする。

オ 講 師 言語文化学部教授 藤縄 康弘 先生

カ 内 容 東京外国語大学に関する説明を受けた後、模擬講義「言語と文化－「ヒト」から「人」へー」を受講した。藤縄教授の専門であるドイツ語に焦点を当て、言語修得の仮設や文化と言語の関係等の内容である。その後、施設見学等を行った。

## 研究開発6 企業，国際機関等との連携

### 1 目的と期待される効果

#### (1) 目的

グローバルな視点で社会貢献している企業や研究施設等と連携し，グローバル社会の現状や課題について講義や講演を受けることで，グローバルな社会課題について実感するとともに，グローバル社会で活躍できる人材としての在り方や生き方を知る。また，グローバル社会で活躍している人からアドバイスや指導を受ける。

#### (2) 期待される効果

グローバル社会で活躍できる人材としての在り方や生き方について考えを深めることで，グローバル・リーダーとしての資質や態度を身に付けることが期待できる。また，グローバル社会で活躍している人との交流を通して質の高い，現実味のある課題研究を行うことが期待できる。

### 2 内容

企業等と連携し，各講座を実施する。生徒は各自の興味・関心により希望する講座に出席する。

### 3 実施方法

学校設定科目「GLアクティブ」において行う。企業等の連携により実施した講座や企業の研究室等に訪問した生徒は，終了後，実施報告書を提出する。提出された報告書及び活動の記録等を基に学校設定科目「GLアクティブ」の評価に加える。

### 4 検証評価方法

検証方法は，生徒及び教員に対して，取組ごとに記名式4択式アンケートを実施し，その結果と連携した企業等からの評価をもとに検証する。

### 5 実施内容

#### (1) 『日本政策金融公庫 ビジネス課題を深めよう』

ア 日 時 平成30年7月9日(月) 3・4限，7月10日(火)・11日(水) 3・4限，  
7月20日(金) 午後4時～午後5時

イ 場 所 体育館(7月9日(月)) 地域交流施設(7月10日(火)及び7月11日(水))  
日本政策金融公庫 千葉支店(7月20日(金))

ウ 対 象 1年生(7月9日)及び2年ビジネス課題研究グループ(7月10日・11日・  
12日)

エ 目 標 ビジネスプランの視点から課題研究の方法を理解するとともに，専門的な見地から指導・助言を受けることでプランニング力を高め，取り組んでいる課題研究を一層深める一助とする。

オ 内 容

(ア) 7月9日(月) (GL探究 1年生対象)

ワークショップ等を行いながら、課題研究の進め方について講義を受けた。

(イ) 7月10日(火)・7月11日(水)

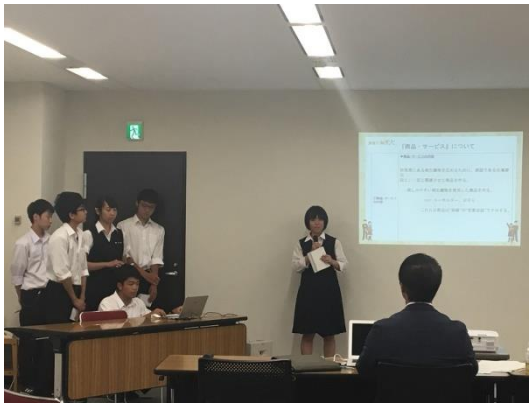
ビジネス課題の解決に向けたビジネスプランについてグループごとに指導・助言を受けた。

※ ビジネスプランとは地域の課題や環境問題などの社会的な課題を解決し、人々の生活や世の中の仕組みをより良いものに変えるために、ビジネス面からのアプローチを考えるものである

(ウ) 7月20日(月)

ビジネスプラン発表会

2年生徒6名が参加し、日本政策金融公庫千葉支店において、伝統工芸品に係るビジネスプランを発表した。コーディネータの方から指導・助言を受け、研究内容について再考する部分があることや研究方法等を改善しなくてはならない点があることに気づいた。また、他校生徒のビジネスプランの発表も聞くことができ、課題研究の参考にすることができた。



## (2) 『東京ジャーミイ・トルコ文化センターと江戸東京博物館』

ア 日時 平成30年8月3日(木) 午前8時30分～午後5時

イ 場所 東京ジャーミイ・トルコ文化センター・江戸東京博物館(東京都墨田区)

ウ 対象 40名(1・2学年希望者)

エ 目標 イスラム寺院と江戸東京博物館を訪れ、多様な文化への理解を深め、多文化共生社会構築を考える。また、イスラムと日本の歴史・伝統・文化を比較し、研究課題を見つける一助とする。

オ 内容 東京ジャーミイ(イスラムモスク)・トルコ文化センターを訪問し、案内を通して、ムスリム同士の連帯感、日常の食生活、礼拝の様子などについて理解した。

イスラムと日本文化との対比という観点から江戸東京博物館を訪問し、日本文化の独自性を再認識した。

カ アンケート結果

【GLアクティブアンケート】(数値は回答数)

① 日本や地域の歴史・伝統・文化、社会課題をより深く理解する必要性を感じた。

おおいにあてはまる	だいたいあてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない
25人	14人	1人	0人

② 外国の歴史・伝統・文化，社会課題に関する興味・関心が高まった。

おおいにあてはまる	だいたいあてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない
33人	7人	0人	0人

③ 今回の GL アクティブの事柄を，外国人に英語で説明することができる。

おおいにあてはまる	だいたいあてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない
4人	10人	22人	4人

④ 今回の GL アクティブの事柄を，友人等と話し合うことができる。

おおいにあてはまる	だいたいあてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない
21人	18人	1人	0人

⑤ 今回の GL アクティブに関連する課題研究テーマを考えることができる。

おおいにあてはまる	だいたいあてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない
6人	22人	12人	0人

⑥ 課題研究に関する新たな（異なる）視点を得ることができた。

おおいにあてはまる	だいたいあてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない
10人	22人	8人	0人

⑦ この GL アクティブは，課題研究テーマを考えるのに役立った。

おおいにあてはまる	だいたいあてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない
10人	23人	7人	0人

#### 【生徒感想】

- ・グローバル化が進む中で，イスラムの考え方をより理解していく必要があるように感じた。
- ・イスラム様式の建築を詳しく見学できて刺激を受けた。これからの活動に生かしたい。
- ・イスラムの方に陽気に話しかけていただき，印象ががらりと変わった。
- ・「礼拝所は心に栄養を与えるところ」と聞き，初めて礼拝の意味を感じることができた。

#### キ 成果と課題

昨年度は，東京ジャーミイのみの講座であったが，文化の多様性を理解することを目的にイスラム文化と江戸文化を比較体験できるよう講座の内容を変更した。生徒の課題意識が明確になり成果があった。その中で東京ジャーミイのイスラム文化は，ほとんどの生徒にとって初見であり，既成概念が霧散するほどの刺激になっていた。文献や映像では実感できない，直接交流し体験することの重要性を改めて認識した。

留意点としては，今回の見学体験をもってイスラム文化をひとくくりしてしまうことの危険性である。イスラムこそ世界最大の宗教であり，その多様性は我々の理解を超える。「良質な体験の積み重ねが国際理解につながる」，このアプローチを続けねばならない。

### (3) 『歴博を知ろう！～「グローバル」な歴史を学ぶ～』

ア 日 時 平成30年8月22日（水）午後1時30分～午後4時

イ 場 所 国立歴史民俗博物館（佐倉市）

ウ 対 象 18名（1学年希望者）

エ 目 標 日本の19世紀後半の近代の出発から1920年代までの展示をもとに日本の近代史を学び課題研究の一助とする。



オ 内 容 国立歴史民俗博物館樋浦郷子先生より、『歴史から Going beyond the Borders (越境) を考えてみる』というワークシートに基づき、①岩倉使節団と女学生たち、②ハリストス教会（東方教会，ロシア正教会）、③千葉卓三郎の私擬憲法について、6つの小グループ毎に担当を決め、①・②・③のいずれかに関する概要をまとめたり、感想・意見などを発表したりした。その際は、館内第5展示室に向き、講師（英語を含む）や音声ガイド（英語）の説明を聞いたり、展示パネルを見たりして回った。

#### カ アンケート結果

##### 【GLアクティブ共通アンケート】（数値は回答数）

① 日本や地域の歴史・伝統・文化，社会課題をより深く理解する必要性を感じた。

おおいにあてはまる	だいたいあてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない
15人	3人	0人	0人

② 外国の歴史・伝統・文化，社会課題に関する興味・関心が高まった。

おおいにあてはまる	だいたいあてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない
15人	3人	0人	0人

③ 今回のGLアクティブの事柄を，外国人に英語で話すことができる。

おおいにあてはまる	だいたいあてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない
1人	5人	12人	0人

④ 今回のGLアクティブの事柄を，友人等と話し合うことができる。

おおいにあてはまる	だいたいあてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない
12人	6人	0人	0人

⑤ 今回のGLアクティブに関連する課題研究テーマを考えることができる。

おおいにあてはまる	だいたいあてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない
5人	9人	3人	1人

⑥ 課題研究に関する新たな（異なる）視点を得ることができた。

おおいにあてはまる	だいたいあてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない
11人	6人	1人	0人

⑦ このGLアクティブは，課題研究テーマを考えるのに役立った。

おおいにあてはまる	だいたいあてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない
8人	8人	2人	0人

##### 【生徒感想】

- ・特に今回の内容はグローバル化との向き合い方と関係しているように感じた。今後の課題研究において重要なポイントとなると思う。
- ・現代だけではなく明治時代にもグローバル化はあったのだと知り驚きました。
- ・資料から想像を働かせることがこんなにも考えが深まるのだなあ、と思いました。現代につながっていることばかりで、歴史を学ぶ大切さを実感しました。
- ・千葉卓三郎について知ったことで、情報や資料を多角的に、様々な立場や視点に立って見ることの大切さ、より良い暮らしへ向かおうとする向上心、学習への熱意を学ぶことができた。

- ・現代につながる歴史上の人物の努力、今とはちがう形のグローバル化、歴史のつながりなどここに来なければ分からなかったことを学べて良かったと思います。今回学んだことや知ったことを課題研究テーマに活かしていければ良いなと思いました。
- ・日本の文化や歴史を外国人に英語で伝えられるように、日本のことをもっと深く知ろうと思った。課題研究も行き詰まっていたけれど、新しい視点から考えていきたい。

キ 成果と課題

日本の歴史伝統文化を踏まえて、グローバルな問題を考える一助となった。生徒はさまざまな角度から歴史的事象を見る力が培われたようだ。一方、事後アンケートの『今回のGLアクティブの事柄を、外国人に英語で話すことができる』に関して否定的な意見が多かったため、発表活動を英語で行うなどの改善が必要かも知れない。

(4) 『浅草・築地周辺調査+江戸歴博を知ろう!』

ア 日 時 平成30年8月10日(金) 午前8時30分～午後5時

イ 場 所 浅草・築地・江戸東京博物館

ウ 対 象 47名(1・2年希望者)

エ 目 標 なぜインバウンド(外国人観光客)が浅草、築地、江戸博(両国)に魅力的に感じているのか調査し、日本文化への理解を深め、多文化共生社会構築を考える。また、他国と日本の歴史・伝統・文化を比較し、課題研究の一助とする。

オ 内 容 浅草寺または築地周辺で外国人観光客を中心に各テーマに関するインタビューや調査を実施。その後、両国の江戸東京博物館で、各自、江戸時代の社会の仕組みや江戸から東京への移り変わり、また、伝統文化について学習した。

カ アンケート結果

【GLアクティブ共通アンケート】(数値は回答数)

① 日本や地域の歴史・伝統・文化、社会課題をより深く理解する必要性を感じた。

おおいにあてはまる	だいたいあてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない
38人	7人	2人	0人

② 外国の歴史・伝統・文化、社会課題に関する興味・関心が高まった。

おおいにあてはまる	だいたいあてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない
34人	10人	3人	0人

③ 今回のGLアクティブの事柄を、外国人に英語で話すことができる。

おおいにあてはまる	だいたいあてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない
6人	21人	20人	0人

④ 今回のGLアクティブの事柄を、友人等と話し合うことができる。

おおいにあてはまる	だいたいあてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない
34人	13人	0人	0人

⑤ 今回のGLアクティブに関連する課題研究テーマを考えることができる。

おおいにあてはまる	だいたいあてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない
18人	24人	5人	0人

⑥ 課題研究に関する新たな（異なる）視点を得ることができた。

おおいいあてはまる	だいたいあてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない
20人	24人	3人	0人

⑦ このGLアクティブは、課題研究テーマを考えるのに役立った。

おおいいあてはまる	だいたいあてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない
26人	19人	2人	0人

#### 【生徒感想】

- ・実際のインタビューを通じて、外国人が日本の歴史や文化について興味をもっている人が多くいることを実感した。
- ・浅草では英語圏でない観光客もかなりいて、もう少しその他の国の表示があれば、観光がしやすいと感じた。
- ・グローバル化が進んでいることを実感し、英語だけでなく、その他の言語を使え必要性を感じた。また、言語だけでなく、お互いを理解するためには文化を理解することが大切だと感じた。
- ・日本人の自分が、駅までの道に苦労したことから、外国人にももっとわかりやすい案内が必要だと感じた。
- ・外国の人に話しかけ、質問するということが初めての経験で、緊張したが楽しかった。
- ・江戸時代の町並みや書物をたくさん見て記録に残せて良かった。
- ・江戸東京博物館には、昔の様子を再現した展示が多く、日本の歴史・文化を身近に感じることができた良かった。

#### キ 成果と課題

昨年度までの江戸東京博物館のみの研修から、「日本の歴史・伝統・文化」を捉える上で、浅草・築地周辺のフィールドワークを取り入れ、外国人観光客から聞き取り調査を行う活動を組み入れた。アンケートから読み取れることは、会話力の差こそあれ、多くの生徒にとって、実際に外国観光客と接することができたのは、貴重な体験だったということである。その中でお互いの文化を理解し合うことが大切だと感じた生徒が多くいたことは今回の研修の成果であった。江戸東京博物館では、じっくりと日本の文化に対峙する時間を持つことができた。昨年度に比べて、浅草・築地でのフィールドワークが加わったことで、生徒が課題意識を明確に持ち活動に取り組んでいた。「日本や地域の歴史・伝統・文化、社会課題をより深く理解する必要性を感じた。」と肯定的に回答した生徒が47人中45人であったことから、「日本の歴史・伝統・文化」について意識を高めることに効果があった。